

水道を取り巻く状況及び水道の 現状と将来の見通し

水道ビジョンフォローアップ検討会

平成19年5月

厚生労働省健康局水道課

水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

水道ビジョンの記述

我が国の水道は、横浜市に近代水道が布設されて以来、110年余りが経過し、また、現在の水道法が制定されてから半世紀が過ぎようとしている。

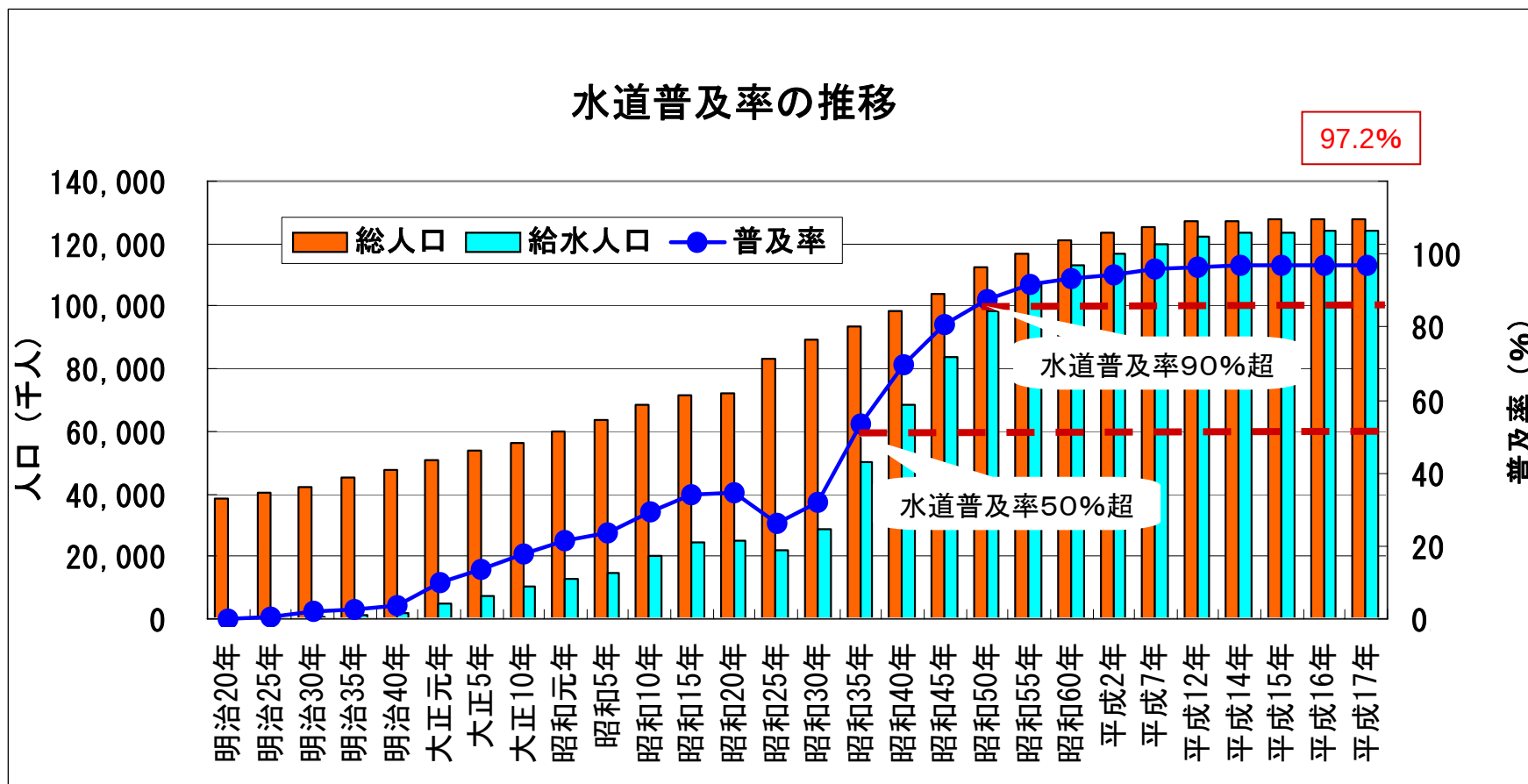
- 明治20年 横浜市水道が給水を開始
- 明治23年 「水道条例」公布
- 昭和27年 「地方公営企業法」公布
- 昭和32年 「水道法」公布
- 昭和35年 水道普及率50%超
- 昭和52年 「水道法改正」(広域的水道整備計画、簡易専用水道 等)
- 昭和53年 水道普及率90%超
- 昭和62年 近代水道100周年
- 平成 6年 「水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律」
及び「水道原水水質保全事業の実施の促進に関する法律」公布
- 平成 8年 「水道法改正」(指定給水装置工事事業者 等)
- 平成13年 「水道法改正」(第三者委託 等)
- 平成15年 「水道法改正」(登録検査機関制度)
- 平成16年 「水道ビジョン」策定
- 平成17年 「地域水道ビジョンの作成について」(地域水道ビジョン策定の手引き)

水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

水道ビジョンの記述

この間水道は、昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長期を契機に、急速な面的量的な拡大期を経て、今日では大部分の国民が利用できるまでに普及している。



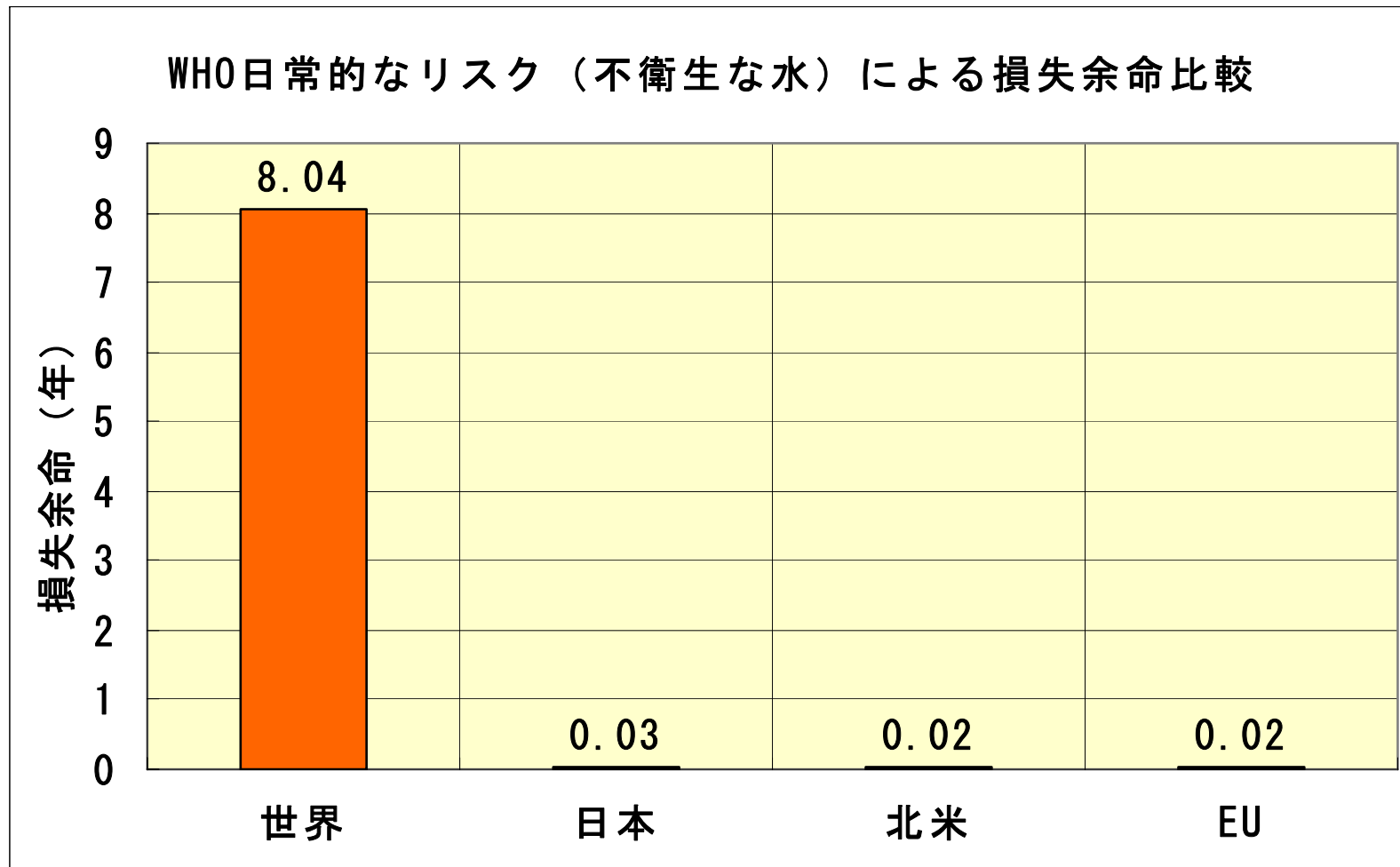
出典：厚生労働省健康局水道課

水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

水道ビジョンの記述

我が国は、水質、水量、事業経営の安定性などの面において、世界でも最も高い水準の水道が実現している国の一つとなっている。



出典：2006年電機・電子5団体環境フォーラム「有害物質対策のあり方」（安井 至 国連大学副学長）のデータを厚生労働省健康局水道課で加工

水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

○世界の水道水準と日本の水道水準の関係

評価項目	ポイント	東京都の評価
①水管理における行政資源の充足度	・ サービスを受ける顧客数 ・ 水道サービスに対する顧客満足度 など7項目	① 1位
②清潔な水の管理における効率と技術的インフラストラクチャーの充足度	・ 水源までの距離 ・ 料金請求に対する回収率 など30項目	② 4位 ③ 1位 ④ 1位 ⑤ 8位
③水質管理と監視の充足度	・ 1日に採取される試料の数 ・ 表流水資源の保護方法 など13項目	総合 1位
④下水管理インフラストラクチャーの効率と充足度	・ ネットワークの長さ ・ 下水処理場の平均流量 など11項目	「今後のベンチマーキングの研究において理想的なモデル都市」との評価を得た。
⑤水管理における情報源の充足度	・ 組織内部のコミュニケーションのレベル ・ 顧客情報と地図情報との統合状況 など10項目	

世界13大都市で東京都が第1位となりました!

<イスタンブール上下水道局の評価>

トルコのイスタンブール上下水道局は、世界の13大都市から集めた業務指標データを基にベンチマーキングを実施しました。その結果、東京都が総合で第1位となりました。

ベンチマーキングとは?

目標とする同業他社等の経営指標などを自社のそれと比較し、数値評価を行うことで、判断に客観性を持たせる経営管理手法のこと。



【対象都市と総合結果】

1位 東京	8位 ベルリン
2位 パリ	9位 上海
3位 イスタンブール	10位 メキシコシティ
4位 ヨハネスブルグ	11位 テヘラン
5位 マドリッド	12位 カイロ
6位 ロンドン	13位 ニューヨーク
7位 モスクワ	

※東京は、総合的な管理、十分な維持管理、効率性などで優れているという結果になりました。なお、ニューヨークは、負荷の高い業務指標が多いために最下位となりました。

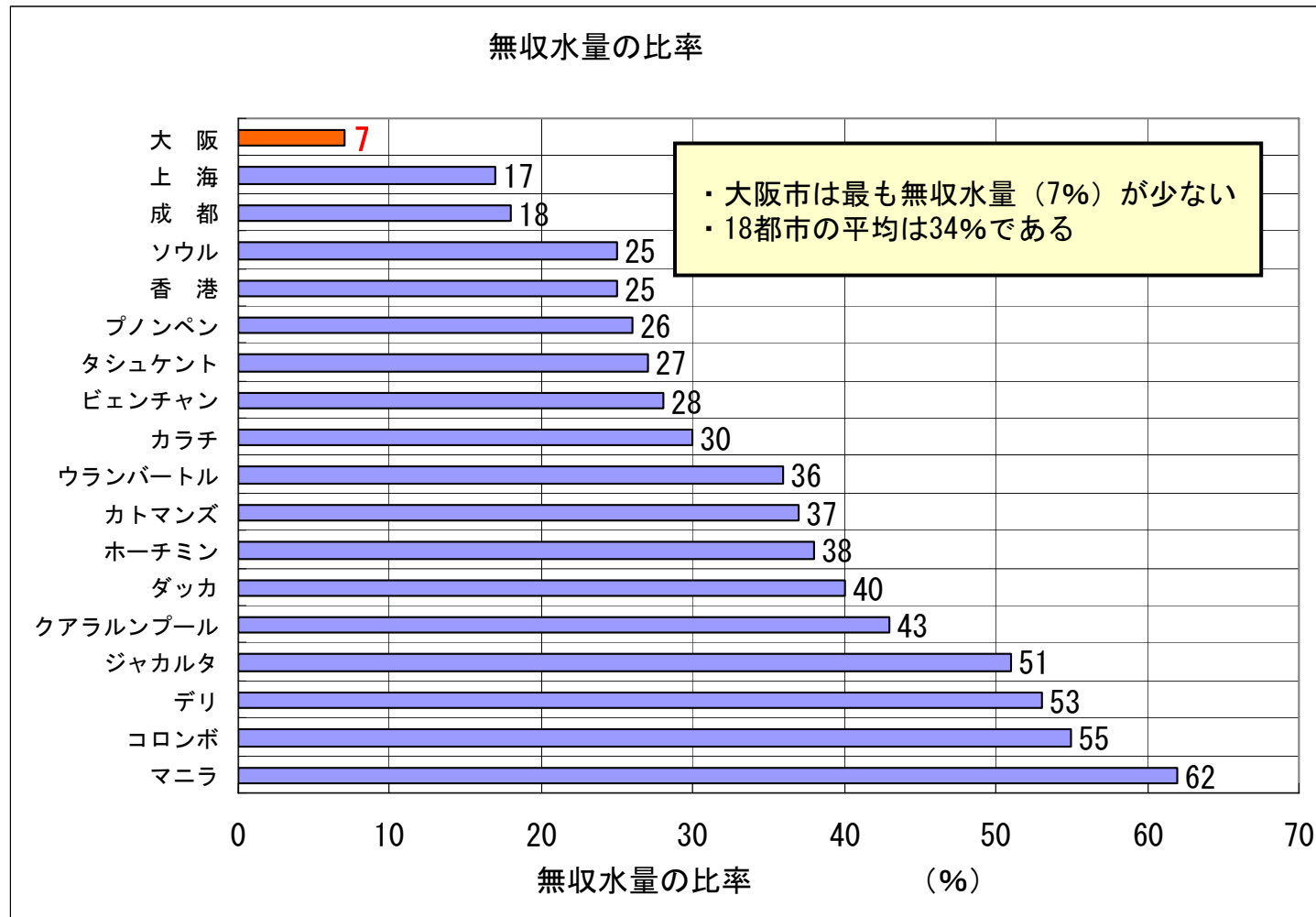
水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

※日本全体の有効率は92.4%(平成16年度末)

有収率は89.6%(平成16年度末)

○アジア主要都市における無収水量の比率の比較



出典：Water in Asian Cities ,Utilities' Performance and Civil Society Views,

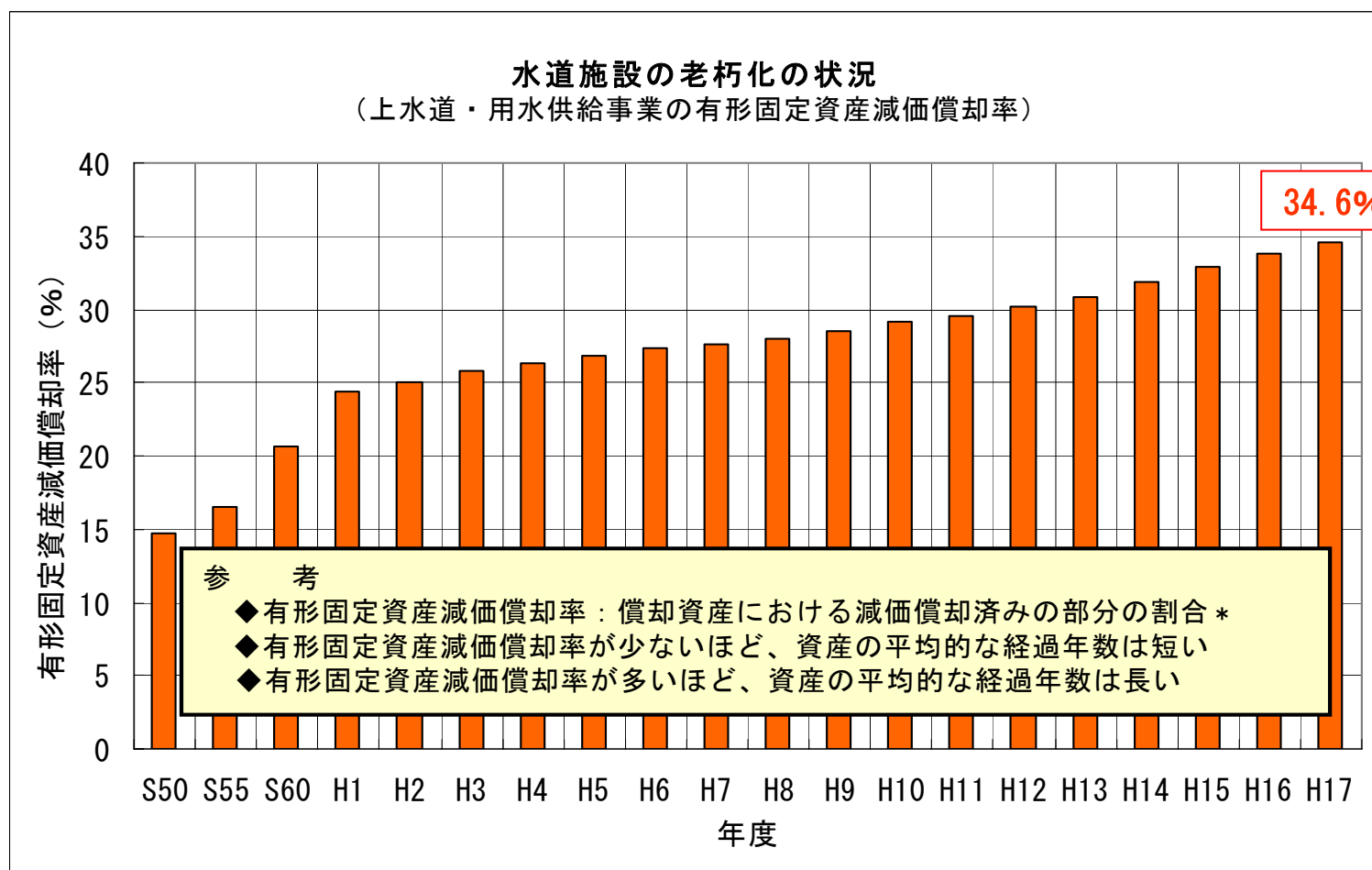
Asian Development Bank 2003（データは2001年のもの）

水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

水道ビジョンの記述

一方、21世紀初頭の我が国では、20世紀に整備された水道施設の多くが老朽化しつつあり、その更新が課題となっている。21世紀は、今後幾度となく繰り返される水道施設の大規模更新・再構築を初めて経験する世紀となる。



＊有形固定資産減価償却率＝有形固定資産減価償却累計額/有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿減価

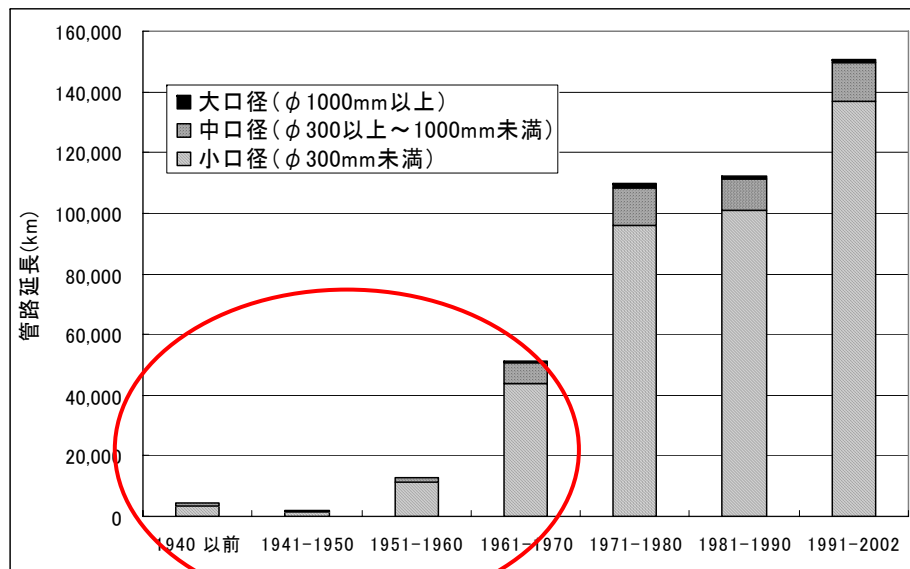
出典：水道統計

水道ビジョンレビュー

1. 水道ビジョンの目的

○管路及び浄水場の布設状況

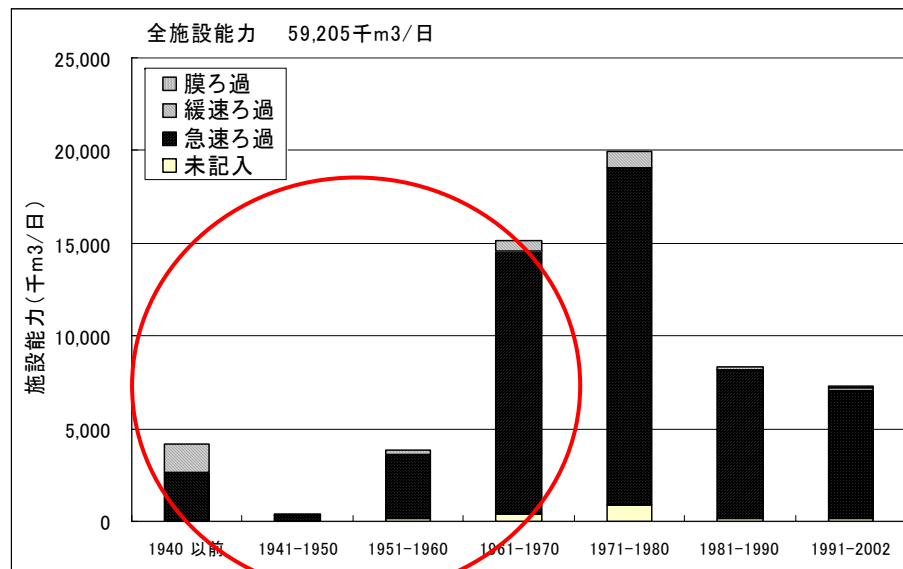
管路の布設年度別延長（平成14年度末）



1970年度までに布設した
管路の割合は約16%

(1980年度までに布設した
管路の割合は約41%)

浄水処理区分別の竣工年度別施設能力（平成14年度末）



1970年度までに竣工した
浄水場の割合は約30%

(1980年度までに竣工した
浄水場の割合は約59%)